

JUST NOW JATS

CHALLENGE FOR THE FUTURE

1.3.5.7.9月発行

2016

34

May

CONTENTS

- みんなでとろう IF 1 面
- 学術調査についてのお願い、第69回学術集会情報、サマースクール案内、会員証 2 面
- 第2回理事会ニュース 3 面
- 第44回日本血管外科学会学術総会、第70回日本食道学会学術集会 4 面

「平成28年熊本地震」により被災された会員の皆様へ

熊本県を中心に4月14日夜から断続的に続いている地震におきまして、被災された皆様へ心からお見舞い申し上げます。また亡くなられた方々へは心から哀悼の意を表し、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

今回は大きな揺れが群発する気象庁も想定外の大地震であり、今後、拡大の懸念もあり、まだ予断を許しません。日本胸部外科学会としては被災された皆様の情報収集並

びに支援、また医学専門学会として、関連他学会と密に連携を取りながら救援活動、静脈血栓症予防対策等に尽力すべく動いております。

会員ご本人や他の会員の皆様の安否、あるいはご勤務先の状況について把握したいと存じますので、随時事務局に情報をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

平成28年4月18日

特定非営利活動法人 日本胸部外科学会 理事長 大北 裕

みんなととろう インパクトファクター

GTCS インパクトファクター (IF) 獲得の取り組み
2016年も勝負です!

General Thoracic and Cardiovascular Surgery (GTCS) は日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会のOfficial Journal、日本心臓血管外科学会のAffiliated Journalです



「今は胸突き八丁、いよいよです!」 日本胸部外科学会理事長 大北 裕

皆様のおかげさまで2016年3月でGTCSの仮IFが0.97を越えました(図1)。これを以て、2015年12月Thomson Reuter社にIF申請を行いました。申請から認定までに1から1.5年必要です。また、仮にIFを獲得出来ても、その後の被引用回数も評価され続けます。今後も、会員皆様のより一層の頑張りとの協力が必要です。

編集委員会の方針としては、総論文数を減らし、引用頻度の高い原著、reviewを増やし、症例報告論文数を絞っています(図2)。この結果(図3)2016年の分母(発行論文数)は230前後、被引用論文数を2015年度の238から日本全国、あと50編増やして頂ければ、仮IFは1.30前後となる希望的観測です。症例報告ご投稿の先生方にはご苦労をかけていますが、ご理解をお願いいたします。

繰り返しお願いしていますが、すでに“インパクトファクターを取得している雑誌”(J Thorac Cardiovasc Surg, Ann Thorac Surg, Eur J Cardiothorac Surg, Circulation, Cir J, J Art Orgなど)に論文を投稿するときには、2014年、2015年発行のGTCSに掲載されている論文を引用してください。心臓、呼吸器、食道各領域の分野別の2014、2015年論文リストはGTCSホームページに掲載しています。

(http://www.jpats.org/modules/journal/index.php?content_id=1)

引用頻度の高い本学会学術委員会の学術調査報告書(Annual report)もフリーアクセスとなっています。(http://www.jpats.org/modules/member/index.php?content_id=11)

現在のところ、IFが付いていないGTCS論文を、ご執筆のGTCS投稿用論文に引用されても、GTCSのIF獲得には寄与しません。また、2013年以前のGTCS論文を引用されても2016年以降のIFには反映しませんので御注意願います。

IF獲得に向けて今は胸突き八丁、いよいよです。何卒宜しくお願い申し上げます。

GTCS編集委員会 2016/3/25

図2

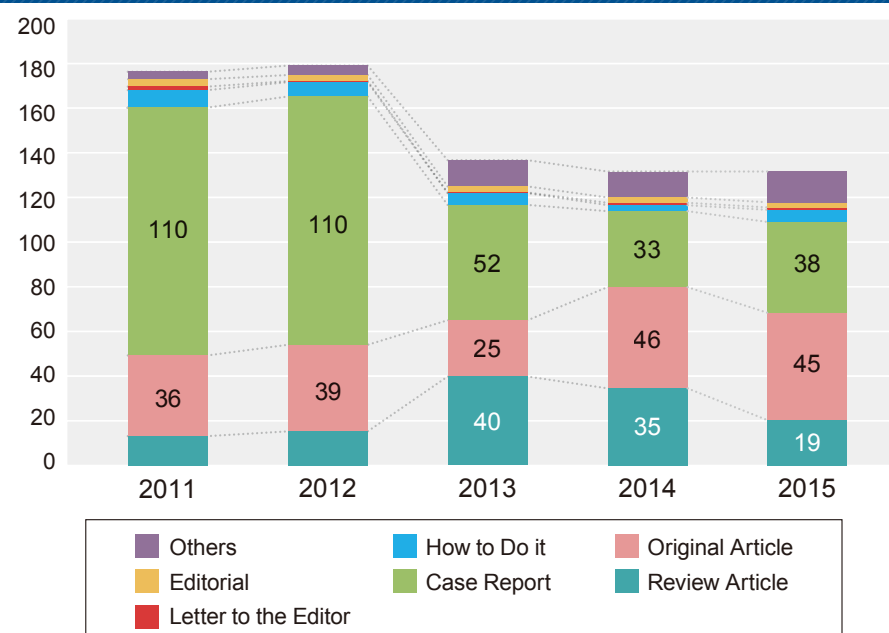
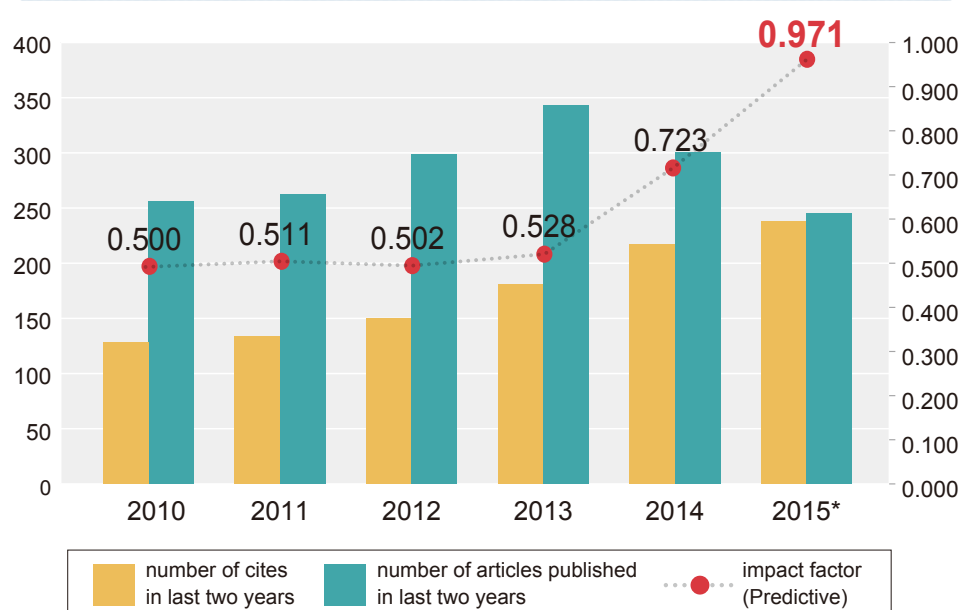


図3

year	過去2年間に引用されたGTCS論文数	過去2年間に発行されたGTCS論文数	仮IF
2015	238	245	0.971
2014	217	300	0.723
2013	181	343	0.528
2012	150	299	0.502
2011	134	262	0.511
2010	128	256	0.500

図1



日本胸部外科学会
Webサイトに
お勧め論文を
掲載しています!



<http://www.jpats.org/>



特定非営利活動法人 日本胸部外科学会
The Japanese Association for Thoracic Surgery

<http://www.jpats.org/>

日本胸部外科学会

学術調査についてのお願い

学術委員会 委員長 益田 宗孝

従来より日本胸部外科の学術調査へご協力いただきまして、誠に有難うございます。日本胸部外科学術調査は1987年より開始され、現在までに2013年の報告が終了し、まもなく2014年の報告がなされる状況であります。会員の皆様には多忙な業務の中、アンケート調査にご協力いただいておりますが、皆様のご負担を軽減する観点からNCDデータベースからの集計に向けて作業を進めているところであります。各領域によって進捗状況が異なることより皆様にはご迷惑をおかけしていることを、この場を借りましてお詫び申し上げます。

さて、2015年の学術調査について各領域別に調査方法について説明させていただきますので宜しくお願い申し上げます。

①食道外科領域

食道領域に関しましては、手術以外の症例に関しましては調査を行う必要があることより現在のところNCDデータベースからの集計は不可能と判断しており、従来通りの紙ベースでのアンケートを行うこととしております。皆様方にはこれまで通り、手作業での入力をお願いすることになりますが、宜しくお願い申し上げます。

②呼吸器外科領域

呼吸器領域に関しましては、NCDデータベース入力項目そのものを日本胸部外科学会の学術調査に合致するように作成したことより、2014年の学術調査から

NCDデータベースからの集計を開始することができました。2014年の結果を見ますと、データのコンバージョンの不具合と合わせて、NCDデータベースへの入力ミスが多少あることが判明しております。2015年に関しましては、NCDデータベースからの集計を行う予定としておりますが、2014年の調査同様、2016年の3月下旬からNCD2015のデータが固定される4月11日までに各施設に学術調査用の事前集計結果をもとにNCD登録を修正していただきました。

5月以降に学術調査報告をしていただくときは、集計権限のある診療科長がNCDにアクセスし、HP上の右側の胸部外科学術調査をクリックし、診療科長はパスワードによりログインします。集計

ボタンを押し集計が終了（通常2～3分程度）すると集計結果のPDFをブラウザ上で開くことができます。NCD胸部外科の学術調査“報告するボタン”を押してWeb上で学術調査報告していただくよう学会から案内する予定です。4月12日以降はNCDデータを修正することはできませんので、集計結果に誤りが判明した場合には、集計結果のPDFをプリントし、誤った数値を手書きで修正の上、もう一度PDFにして胸部外

科事務局までメールでお送りいただくことになります。先生方にお送りいただいた結果は学術調査に反映させるとともに、データコンバージョンの改善へ向けて参考にさせていただきます。2014年の学術調査ではNCDで登録された胸腔鏡手術を学術調査で開胸手術に変更される施設が目立ちました。NCD登録時にご注意ください。

③心臓血管外科領域

心臓血管領域に関しても、2015年調査より呼吸器外科と同様にNCDデータベースからの集計を行う予定にしておりますが、コンバージョン作業の遅れにより2015年のNCDデータベースが固定される前の調査は困難となっております。

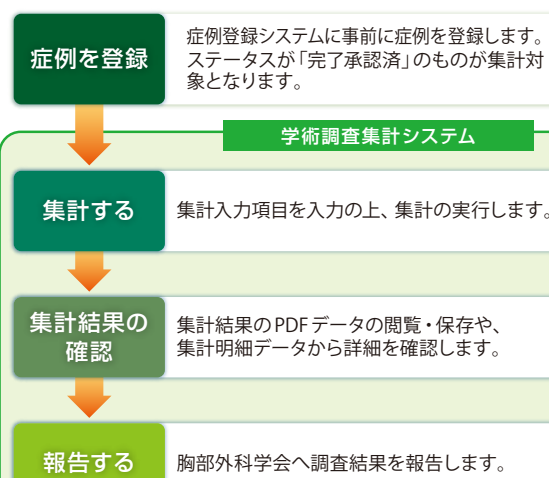
調査方法は呼吸器外科と同様にNCDの画面で行っていただきます。そこで、集計結果が正しい場合には“報告するボタン”を押してください。

集計結果に誤りがある場合にはNCDデータベースが固定されているため、NCDデータベースの入力ミスがあっても訂正できません。その場合には、呼吸器外科同様に集計結果のPDFをプリントし、誤った数値を手書きで修正の上、もう一度PDFにして胸部外科事務局までメールでお送りください。誤りについてNCDデータベース入力ミスの場合には、それを追記していただけますと今後の改訂作業に役立ちますので、宜しくお願い申し上げます。

④現在の所対応できない点

同一入院で複数回手術を施行された死亡症例では死亡がダブルカウントされる可能性が残ること、先天性心疾患では手術による分類ではないために、症例は診断1の項目に振り分けられること、補助循環やペースメーカーの項目はNCDデータベースにないこと、などにより一部手入力での訂正や報告が必要となります。

報告完了までのフロー



画面操作手順

メニュー画面

ユーザー情報の施設診療科が集計を行う施設診療科になっていることを確認し「胸部外科学術調査」ボタンを押します。



「胸部外科学術調査集計システム」は、NCD症例登録システムに登録されたデータを活用し、胸部外科学会の学術調査の集計を行い、オンライン上で調査報告を行うものです。詳細はNCDのHPをご確認ください。ご不明な点がございましたら、survey-adm@umin.netにご連絡願います。

第69回 The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Association for Thoracic Surgery
日本胸部外科学会定期学術集会

会 期：2016年9月28日(水)～10月1日(土)

会 場：岡山コンベンションセンター
ホテルグランヴィア岡山
ANAクラウンプラザホテル岡山会 長：三好 新一郎
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 呼吸器・乳腺内分泌外科 教授

テーマ：温故創新-Innovation & Improvement-

URL：http://www2.convention.co.jp/69jats/

演題募集

演題募集期間は終了いたしました。
多数のご応募をいただき、ありがとうございました。
採否通知は6月中旬を予定しております。

連絡先：

●第69回日本胸部外科学会定期学術集会 事務局
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 呼吸器・乳腺内分泌外科 (第二外科)
〒700-8558 岡山県岡山市北区鹿田町2-5-1
TEL: 086-235-7265 FAX: 086-235-7269

●第69回日本胸部外科学会定期学術集会 運営事務局
日本コンベンションサービス株式会社 関西支社内
〒541-0042 大阪市中央区今橋4-4-7 京阪神淀屋橋ビル2階
TEL: 06-6221-5933 FAX: 06-6221-5938
E-mail: 69jats@convention.co.jp



呼吸器外科サマースクール 今年も開催します!

2016年4月6日現在 予定

2016
7/9(土)・10(日)【会場】
神戸医療機器開発センター (MEDDEC)
ニチイ学館ポートアイランドセンター

心臓血管外科サマースクール

2016
8/20(土)・21(日)【会場】
テルモメディカルプラネックス

参加申込など詳細は日本呼吸器外科学会、日本心臓血管外科学会、
当会のHPをご覧ください。

学術集会の参加には 会 員 証 が必要です

紛失・破損・汚損や改姓・改名された方は
会員証再発行のお手続きをお早めに。詳細
は学会HPをご確認ください。



http://www.jpats.org/

1. 各種委員報告及び協議事項

(1) 理事会報告

1) 地方会クレジットの件

専門医獲得を目指す専攻医が本会地方会の発表を専門医新規申請の際のクレジットにできるよう依頼したところ、心臓血管外科専門医認定機構は2016年度から演題を募集する地方会における発表を0.5単位として認める(後日、1月の発表から認めることに変更)、呼吸器外科専門医合同委員会は新専門医制度における医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会を地方会で開催した場合に専門医申請に有効なポイントとしてカウントするとの回答が報告された。

2) 外国人名誉会員推薦の件

三好会長からJoel D. Cooper先生の推薦があり、今後、学術集会委員会で検討し、理事会で最終決定する。

3) バルーン肺動脈形成術(BPA)の施設基準・実施医・指導医承認の件

日本循環器学会から上記承認依頼があり、持ち回り理事会を行った。その結果の質問も添付の上、承認の回答を送付したことが報告された。

4) 心臓外科におけるダビンチ支援手術のための指針

ロボット心臓手術関連学会協議会から上記承認依頼があり、持ち回り理事会を行った。その結果の質問も添付の上、承認の回答をしたこと、また、質問に対する回答も送付されていることが報告された。

5) PVL閉鎖デバイス後援依頼について

「Occultech PLDデバイスを用いた経カテーテル人工弁周囲逆流閉鎖術」(医師主導臨床治験)について日本医師会治験促進センターへの推薦依頼があり、事前に役員へ送付していた資料の概要が、説明された。この治験に対する安全性の担保と医療費について問題定義がだされ、その回答を検証した上で、再審議する。

(2) COI委員会

「医学研究のCOIマネージメントに関するガイドライン」に基づき、主たる改訂はタイトルを『臨床研究』から『医学研究』に変更、対象に本学会の事業活動に参加する者を追加、会員の役割として一定以上の利益相反状態がある者は特定委員会の委員長に選任されないことを追加、奨学寄付金の200万円を100万円に変更した内容などで、持ち回り審議をした結果が報告された。COIの金額等は学会で決定することになるため再度、持ち回り審議の上、最終版を策定し、第3回理事会(3月開催)で決定する。なお、「1.講演料・原稿料は50万円」については、本理事会で検討し「年間100万円を超える」とすることに決定した。

(3) 選挙管理委員会

1月18日までの締切りで評議員立候補届け受付中、2月15日までに投票用紙の発送、3月15日が投票締切日である。また、役員選挙をマークシート方式の投票方法に変更することが提案され、その方向で検討する。

(4) 会誌編集委員会

1) 第1回常任委員会議事録、論文投稿・掲載状況が説明された。2015年投稿数は209(前年比較100減少)、Original Article 65(20減少)、Case Report 108(60減少)、Invited Reviewは13(16減少)。新規投稿数の減少は問題。Accept率はOA 57.6%、CR 27.7%(30%以下の目標達成)、方針としてはORおよびIRをできるだけ掲載する。投稿からAcceptまでの平均所要期間はReject 1ヵ月、Accept 100日。Online First掲載は2週間、冊子掲載はOA半年、CR 2年。掲載数は116でOA 45、CR38、IR 15であった。

2) Review Article Report進捗状況、第68回学術集会の際のKeynote lecture、座長推薦演題一覧の資料が提出された。



3) 評議員資格にGTCS投稿歴を加える件は、大学とそれ以外の集計データ分析結果が提出され、過去4年に1回も投稿していない評議員が114名おり、本件は、今後、副理事長がたたき台を作成し理事会に提案する。

4) 仮IF値が0.82となったので2015年12月にトムソンロイター社に申請したことが報告された。今後、1～1年半審査期間に入るため、引き続きの努力が必要である。

5) ホームページは引用促進資料分野別論文リストを更新し掲載、日本呼吸器外科学会に協力をいただきGTCS Online Journalバナーをリンク、Online Journalと文誌(抄録)検索を改良、本会50回記念誌を掲載準備中である。

6) 地方会・学術集会のGTCS広報は幹事会・評議員会でも実施するよう依頼し、ポスターを改訂した。

(5) 総合将来計画委員会

本年度理事長からの諮問事項について、委員に意見を求め取り纏めている。

(6) 政策検討委員会

本年度に取り組むべき事項について持ち回りアンケートを行った。呼吸器外科の学術調査においてNCDデータを利用したことによって、専門医制度とは関係のない施設が200～300あることが判明した。学会としてはその施設に対して何もできないことを社会に伝えることが大事で、定期的に1年に1回はプレスリリースを行う方向とする。

(7) 学術委員会

1) 2014年学術調査・回答状況

心臓分野は519施設から回答があり、91%、食道は599施設から回答があり、96%、呼吸器はNCDデータからの利用で674施設から回答があったことが報告された。

2) 呼吸器外科データについて

今回、呼吸器外科の手術をNCDデータに登録しているのは約1,000施設あった。昨年、アンケートは793施設に送付し、761施設からの回答で96%の回収率であった。1,000施設を母数とし、674施設からの回答とすると回収率が大幅に下がってしまうのは問題であるとのことと検討した。

3) 心臓外科データについて

①2014年データについて
2014年のデータが確定次第、過去5年間(2010年～2014年)の解析データをだしてマスコミへの公開を考えている。

②2015年データについて
本年2月中にコンバージョンを完成し、2015年データで検証予定であるが、データの複雑性からデータFIX前に検証できない可能性もある。

(8) 学術集会委員会

1) 理事長指針に則り、委員会がどうあるべきか検討する。プログラム基本構想委員会は総合将来計画委員会とオーバーラップがあるので、大筋の基にプログラムの基本構想立て、各学会はそれぞれの特徴をだすためプログラム委員会を会長の指名で設置することを検討している。

2) 構成員は理事もしくは理事に準じる委員として数年間固定したメンバーとし、日本呼吸器外科学会・日本血管外科学会・日本食道学会・日本心臓血管外科学会に各1名を推薦いただき基本を検討する。プログラムに関してはプログラム基本構想委員会を別に作る。委員長も数年間継続とし、会長も構成員とする。

3) 会長メダル・楯について検討し次の通りとなった。会長メダルデザインは外国人名誉会員メダルと同様、メダルは2種類作成(学術集会の際に歴代会長が引き継ぐメダル(直径8cm)と会長個人に記念品として渡すメダル(直径6cm、裏面氏名記載)、色は金色など今後検討、楯は作成しない。

4) 2017年第70回学術集会は「70年記念誌」を作成し、学術集会の際には胸部外科の歴史パネルなどを展示する。

5) 第69回定期学術集会(三好会長)
海外名誉会員の推薦、第2回プログラム委員会(2016年1月15日開催予定)、プログラム案(チーム医療:益田先生、3領域合同シンポ:移植、胸部外科領域ロボット手術)、心4:肺2:食1を基本に開催予定であることが報告された。

(9) 倫理・安全管理委員会

報告事項 1) 三学会合同事故調査委員会NW手術報告書 2) 日本医療安全調査機構の現況 3) 収賄による会員懲戒処分の件 4) 第69回定期学術集会時における医療安全講習会の内容 5) 医療安全講習会のビデオ講習会の件 6) 医療安全講師の方に専門医試験問題作成を依頼する件について報告された。

協議事項

1) 新規導入高難度手術の安全管理に関する懇談会の件

胸腔鏡下肝臓手術など保険適応外の高難度手術の安全管理が問題になっており、胸部外科領域でも類似の問題が懸念されるので、診療問題委員会との合同懇談会を開催し、検討する必要があるとの提案があり、引き続き検討事項とする。

2) 一般社団法人医療安全全国共同行動正会員入会について

正会員としての入会依頼があり、検討の結果、入会しないこととした。

(10) 専門医制度委員会

外科関連専門医制度委員会と外科学会専門医制度委員会との合同会議の議事録に沿って外科専門医プログラムについて報告された。主な報告内容は事前アンケートの件、外科専門研修プログラム募集受付(3月1日までに専門医制度委員による一次審査、専門医機構が5月までに全領域の二次審査を終了しプログラムの認定、各プログラムの専攻医募集は6月開始)、外科専門研修プログラムの懸案事項の件(初期臨床研修中の外科専門医研修100例までは認める、基本領域研修期間内に1年を目途にサブスペ領域を研修する旨を認め、研修プログラム内に『サブ領域展開コース』を設けることは可能、ある施設が複数の研修プログラムの連携施設となった場合1つの研修プログラム下の専門研修指導医は別の研修プログラム下の専攻医を指導してもよい)、外科領域専門研修プログラムの申請受付について報告された。今後は1月25日にサブスペ領域認定学会と専門医機構専門医制度検討委員会との合同会議が予定され、サブスペ部分の整備基準は来年以降になると報告された。

1) 心臓血管外科専門医認定機構

第8回認定機構総会議事録に沿って報告された。主な報告内容は合格率、試験問題のコアカリキュラムを作成し、過去問を選んで問題集を作成、239名の更新・19名の猶予申請・89名の修練指導者の認定、指導医講習会は機構で企画し費用も負担、新専門医制度に向けての対応を告知したことである。

2) 呼吸器外科専門医合同委員会

専門医試験結果、認定登録医からの復活が6名、2016年認定修練施設審査結果について報告された。

(11) 研究・教育委員会

1) サマースクール

呼吸器外科サマースクールの決算が報告され、承認された。2016年は、呼吸器外科サマースクールで日本呼吸器学会及び日本肺癌学会に新たに協力を求めているが、呼吸器外科サマースクールとして継続することが前提である。呼吸器外科は7月9日(土)～10日(日)(神戸)、心臓血管外科は8月20日(土)～21日(日)(テルモ)で開催予定。

2) PGC

心臓血管外科は第69回テーマ『Transcatheter Aortic Valve Replacement』でAATSより講師推薦があり現在依頼中。3学会合同PGC委員会を心臓血管外科学会期間中に開催予定である。呼吸器外科は第69回より60分延長するに伴い2テーマ追加した。また、今春出版予定である呼吸器外科専門医テキストの内容に基づき、日本呼吸器外科学会ならびに当会セミナーの中期計画を両学会の担当者で作成する。食道外科は今後、同分野の会員がより多く集まる日に開催する。また、海外からの講師推薦の件について、今後はEACTSもAATSと同様、こちらでお願いするテーマを提示し、適した講師を先方に推薦してもらうことを正式ルートとする。

(12) 診療問題委員会

左心耳を閉鎖するデバイス(Atri Clip)の薬事承認がおりたが、委員会で検討した保険収載を認める要望書(案)が提出され、検討の結果、日本心臓血管外科学会との連名で提出する。(要望書は2月5日提出済み)

(13) 広報(Homepage・Internet)委員会

委員構成、News letter掲載内容、Homepageの一般向け心臓血管外科(先天性)を作成中であること、関西胸部外科学会から会員への演題募集メール配信の依頼があり協力することが報告された。

(14) 処遇改善委員会

大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会が開催されたこと、第10回日本胸部外科女性医師の会について報告された。

(15) 国際委員会

JATSフェローシップの概要説明とEACTS他へ提出する文書案が提案され、運営資金を企業からの寄付金とし、そのために基金を作ること、実際に数社の企業から協力依頼があることが報告され、引き続き検討事項とする。

(16) 補助人工心臓治療関連学会協議会

植込型LVAD実施医13名、実施施設2施設の認定、更新申請受付が2月1日まで、Excor保険償還の現状並びに厚生労働大臣への『適正な保険償還』要望書提出、J-MACSレジストリー(事務局の件)、植込型補助人工心臓市販後植込手術の進捗状況(テルモ社よりDura Heart製造販売を2017年3月で製品供給中止の説明、バックアップ用ポンプ供給は2018年12月まで)、今まで人工心臓に貢献されてきた野尻知里先生の訃報について報告された。

2. その他

(1) NCD社員総会報告

各学会からの理事交代の件、事業報告、施設会費納入状況2015年決算予定額及び2016年予算額内訳、財産目録について報告された。

(2) 日本循環器学会からのガイドライン作成班員依頼について

今回、日本循環器学会から急性・慢性心不全治療ガイドライン(2018年改訂版)作成の班員依頼があり、齋木理事を本会からの代表委員とする。

変容する病態、進歩する治療

第44回日本血管外科学会学術総会の開催にあたって

佐藤 紀 埼玉医科大学総合医療センター 血管外科

このたび5月25日から27日の会期にて、東京お台場のホテル・グランパシフィックLE DAIBAにおきまして第44回日本血管外科学会学術総会を開催させていただくこととなりました。誠に名誉なことでと緊張しております。

さて最近の閉塞性動脈疾患をみますと、糖尿病の増加に伴う末期腎不全に合併する病変の増加が大きな変化と言えます。糖尿病性動脈硬化症に特徴的な末梢性の動脈閉塞は、跛行を示さず突然組織欠損を伴う重症下肢虚血に進行することが特徴的であり、患者の病態はより重症になってきており、この領域の血行再建を一層困難なものとしてきております。一方治療における最近の大きな流れは低侵襲化であり、閉塞性疾患治療に限らず血管内治療の普及は目を見張るものがあります。特に近年のデバイスの進歩は著しく、個人個人の手技の上達による手術成績の向上にのみ根ざしがちであった従前の治療進歩の速度とは大

きな差があります。いわば、疾患構造の変化と、治療法の変化が平行して起こっていると言えようかと思います。したがって、今回の学会のテーマは「変容する病態、進歩する治療」とさせていただきます。

また最近の話題はなんと言っても新専門医制度の発足です。以前より日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会の三学会構成心臓血管外科専門医資格の取得および更新条件として、各学会が行う教育セミナー、医療安全講習会の受講が求められてきました

が、本学術集会ではこれに加え、新たに指導医更新の際に受講が求められることになる予定の、指導医講習会も開催することとしております。

胸部外科学会会員の皆様の多くは、末梢血管疾患をもあつかわれている事と思います。海外からの招待演者として、SVS前会長のLawrence先生、末梢動脈血行再建に関してConte先生、Dardik先生、また間欠性跛行のメカニズム研究のPipinos先生などをお招きしておりますので、どうぞ、本学術集会にご参加くださいまして、最新の知見を確認すると



もに大いに議論を戦わせていただきたいと願う次第です。



佐藤 紀
所属：埼玉医科大学総合医療センター 血管外科
卒業大学：東京大学

経歴：
昭和52年3月 東京大学医学部医学科卒業
昭和52年6月 東京大学医学部付属病院研修医
昭和53年12月 国保旭中央病院外科
昭和55年12月 東京大学医学部第二外科医員
昭和57年10月 藤枝市立志太総合病院外科
昭和58年10月 東京大学第二外科医員
昭和59年5月 同 助手

昭和61年4月 都立広尾病院外科
昭和62年4月 東京大学医学部第二外科医員
昭和63年10月 同 助手
平成9年6月 埼玉医科大学総合医療センター外科助教授
平成18年8月 埼玉医科大学医学部教授
埼玉医科大学総合医療センター血管外科診療科長

趣味：温泉巡り、うまいものを食べること
好きな言葉：時に癒し、しばしば和らげ、常に慰む(伝 アンプロワーズ・パレ)

食道樂のすすめ ～面白くてためになる食道学～

第70回日本食道学会学術集会について

宇田川 晴司 虎の門病院 消化器外科・副院長

第70回日本食道学会学術集会を、7月4日教育セミナー、5・6日学術集会という構成で、東京タワーの隣の、ザ・プリンスパークタワー東京で開催いたします。

食道という臓器の持つ機能は比較的地味なものです、それが損なわれた場合

の深刻さと、治療に伴う困難性は周知の通りです。食道疾患治療の発展のためには、臨床各科のみならず基礎系学科も一つになって協力をしあってゆく体制が必要であり、近年ではさらに医師だけでなく、幅広い職



種の関わりが必須であることも広く理解されてきました。その理想的な有機的集合体はあたかもオーケストラのごとくであり、その意味で、「食道学」は「食道樂」である、と考え、これを本学会のテーマに据えて、「食道樂のすすめ」と致しました。そこには、「食道学は面白いぞ!」という思いも込められています。

副題を“from Information to Knowledge”としたのは、単なる情報の羅列ではない、生きた知識を得られる場としたい、という思いからで、みなさんが日ごろ持っている食道に関するクリニカルクエスチョンに対する回答に一步でも近づけるように、ホームページ (<http://gakai.co.jp/jes70/>) にもあります通り、幅広いテーマを設定しました。

ドイツのOliver Pech先生、日本の矢作

直久先生に、東西の内視鏡治療の最前線について語っていただき、北川雄光先生、小山恒男先生とともに論議を交していただくシンポ、昨年に引き続き今年もアジアの6人の食道外科医による扁平上皮癌治療についてのシンポ、と2つの国際シンポジウムも用意しました。

下見に行った会場が気に入って、場所にこだわったら月～水曜日と変則的な日程になってしまいました。皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、頑張って皆様の記憶に残る学会にしたいと思います。多くの皆様のご参加と活発なご討議をお待ちしております。



宇田川 晴司
所属：虎の門病院 消化器外科
卒業大学：東京大学

1979年 虎の門病院 外科病棟医
1986年 同 消化器外科医員
1993年 同 消化器外科医長
1998年 同 消化器外科部長
2015年 同 副院長(兼任)

趣味：観劇
好きな言葉：fine



編集後記

現在台北のホテルでこの編集後記を書いている。アジア心臓血管胸部外科学会の第24回学術集会が4月7日～10日の予定で行われている。日本からも多くの演題が出され販わっている。今年はアジアを中心に30以上の国から1,800人の参加者を得たということで、過去最高であるらしい(会長の弁)。この会はそれほど緊張する会では無いので、比較的若い人が英語で発表するにはもってこの学会であり、私の施設からも何人かの若手医局員が発表の機会を得た。さて、今回のNEWSLETTERのメインピックは再びGTCSのIF獲得の取り組みである。昨年12月にGTCSの仮IFが約0.9になり、ついにThomson Reuter社にIF申請された。認定までにはまだ1年くらいはかかるようであるが、その後も被引用回数は評価され続けると言うこと

で、われわれ日本胸部外科学会員としてはさらに頑張りたいところである。既にIFがついている雑誌に投稿される時に、2014年以降のGTCS論文を引用するようにお願いしたい。学会のHPから学会誌を選ぶとすぐ目につくところに分野別にOriginal ArticleとCurrent Topic Review Articleのリストが出てくるようになっており、かなりの数がリストアップされているので、その内の何かは引用できると思う。要はそういう意識で持って論文を書いて頂ければ被引用回数は伸びるはずだ。一旦IFがつけばGTCSもようやく世界で認められるジャーナルに仲間入りだ。

みんなでどうIF!!

広報委員会委員長 夜久 均

日本胸部外科学会 NEWSLETTER

JUST NOW JATS

No.34
2016年5月10日発行

発行◎特定非営利活動法人 日本胸部外科学会
〒112-0004 東京都文京区後楽 2-3-27 テラル後楽ビル 1F
TEL◎03-3812-4253 FAX◎03-3816-4560
URL◎<http://www.jpats.org/>

編集◎日本胸部外科学会 広報委員会
E-mail◎jats-adm@umin.ac.jp

デザイン・制作◎株式会社 杏林舎